

バイリンガルの教科学習の個人差と指導方法 —イマージョン教育を受ける中学生への半構造化面接から—

今井信一 (ぐんま国際アカデミー中高等部)

キーワード: イマージョン教育, 教科学習, バイリンガル

目 的

イマージョン教育とは、目標言語で数学科や理科などの授業を行うことで、教科の学習をしながら目標言語が習得されることを目指すバイリンガル教育である。Bostwick (1999) や Downes (2001) によって、日本で英語イマージョン教育を受ける児童は、日本の算数のテストで、日本語のみで授業を受けている児童と成績が同等であると報告された。算数ではイマージョン教育の目標の 1 つである児童生徒の学年や学力にふさわしい一般教科の成績を保証すること (Genesee, 1983) が達成されているといえるが、その目標達成を支えた学習方法や指導方法については検討されていない。

本研究の目的は、英語イマージョン教育を受ける中学生を対象として、日英 2 言語で授業が行われている教科の学習方法の特徴を明らかにして効果的な指導方法を検討することである。

方 法

調査協力者 日本で英語イマージョン教育を受ける中学 3 年生 11 名。家庭での言語使用は、日本語のみが 9 名、日本語と英語が 2 名 (日本語 50% 英語 50%; 日本語 80% 英語 20%)。海外での生活経験は、1 年未満が 8 名、5 年以上が 3 名。

手続き 2017 年 7 月と 12 月に個別に半構造化面接を行った。調査の目的や個人情報取り扱い、回答は任意であることを説明し、同意を得た上で録音した。面接時間は平均約 26 分であった。

調査内容 質問内容は、日本語と英語の習得状況の自己評価や、日英 2 言語で授業が行われる教科に対する意識や学習行動などである。

結果と考察

対象者のうち、両親が日本語話者で家庭での使用言語は 100% 日本語で、海外での生活経験が 1 年未満の生徒 8 名の発話を分析した。日英 2 言語で授業が行われる数学科などの教科について、英語での授業の方が理解しやすいと述べた生徒を英語優位の生徒、日本語での授業の方が理解しやすいと述べた生徒を日本語優位の生徒とした (Table 1)。

英語優位の生徒 授業の使用言語に応じてコードスイッチングをして思考やアウトプットができています。意識的に 2 言語での学習を関連づける工夫をせずに授業内容を理解している。

日本語優位の生徒 意識的に日本語での学習における理解を英語での学習に活用している。日本語での予習などの自習や、授業中の教員の指導上の工夫で、英語での授業を理解している。

以上のことから、イマージョン教育を受ける生徒間でも、英語の習得レベルによって 2 言語での教科学習のされ方が異なることが明らかになった。日本人家庭に育っても英語での授業の方が理解しやすいと述べる生徒がいる一方、多くの生徒は日本語優位であった。Cummins (2007) は、生徒の第一言語を認知的・言語的リソースとして第二言語指導を行うバイリンガル指導法の重要性を述べた。日本の英語イマージョン教育での教科学習においても、教員が英語での授業中にも必要に応じて日本語で説明することや、日本語での教科学習における理解を活用できるような予習を含めた自習方法を指導することの有効性が示唆された。

Table 1 日英 2 言語での教科学習に関する生徒の発話

英語優位の生徒の発話	日本語優位の生徒の発話
○頭の中で考えるのも英語に変わる、英語での授業では、＜中略＞英語で入って英語で考えて英語で出て、って感じです。	○英語での数学の授業を受けているときに、日本語の数学を思い出します。
○日本語で話しているときは日本語で考えてて、英語で話しているときは英語で考えてて、自然と切り替わってます。	○日本語で大体頭に入れて翻訳してます。＜中略＞日本語で流れを覚えて、英語に変換していく。
○ (2 言語での教科の学習を結びつける工夫をしているかとの問いに) 全然ない。何にもない。	○ (日英) 両方の教科書を見るんじゃなくて、日本語の教科書に英語の単語をあてはめていく。
○ (2 言語の学習単語の整理をどのようにしているかとの問いに) 自然とやってたからわからない。	○ (英語での理科の教科担任が) 日本語が話せる先生だから助かっています。例えば細胞分裂をやるときは、まず少し日本語で説明してくれた後に英語でやってくれて。
	○ (英語での授業で) わからないところとかがあったら、日本語でもやってくれるから助かる。